

球磨農業研究所

I 基本方針

球磨地域の水田地帯では、水稲、野菜、タバコ、畜産などが営農されている。畑地では露地野菜、茶、落葉果樹などが導入され、生産性の高い大規模経営及び所得向上のための安定的複合経営の確立が求められている。

一方で、担い手の減少と高齢化に対応した省力化技術の開発や、新しい米・麦政策に対応した水田利用の再構築、環境保全型農業に関する技術開発など、新たなニーズや問題に対応する必要がある。

また、新規品目の導入による所得向上も図られており、安定生産のための技術確立が求められている。

このため、普及・行政・農業団体などの関係機関と密接な連携・協調を図りながら、球磨地域が直面する技術的課題を迅速・的確にとらえ、球磨地域特有の気象条件などに適応した茶、落葉果樹の優良品種選定と、その特性に合った高品質安定多収生産のための栽培技術の開発を行う。さらに、各専門研究所と連携し、省力・低コスト生産技術や新規品目の栽培技術の検討を行うとともに、新技術の普及・実用化のための応用組立実証を中心に試験研究を進める。

II 重要研究事項

1 くまもと農業の未来発展につながる新品種の開発・選定

国、県などで新たに育成された品種系統の中から、品質・栽培特性の両面で球磨地域に適する茶、落葉果樹（早生モモ）の品種を選定及びクリの作況調査を実施し、栽培のための基礎的なデータを収集する。

2 生産性の向上を目指した革新的な生産技術の開発

球磨地域で導入が進んでいるクリ「美玖里」は、他品種に比べ樹勢が強く、若木期の枝が大きく徒長する傾向があるが、その特徴に応じた栽培技術が確立していない。そこで、結果母枝数や摘芯処理の検討を行い、「美玖里」の安定生産技術を確立する。

また、クリでは水田転換園への栽植が増加しているが、苗木の枯死や生育不良がみられる。そこで、排水対策が苗木の生育状況や収量に及ぼす影響について検討し、水田転換園への栽植技術を確立する。

一方、県内の主要産地であるモモについては、優良品種である「さくひめ」について、トンネルハウス栽培での摘果方法や台木の違いによる若木の枯死症発生の軽減技術の検討を行い高品質・安定生産技術を確立する。

3 環境にやさしい農業を推進する技術の開発

球磨地域ではウリ類の生産が盛んであり、従来の主力品目であるメロンに加え、近年ではズッキーニの施設栽培も注目されるなど新たな展開もみられる。しかし、各品目とも課題を抱えている。メロンは、近年の温暖化の影響により産地で定められた交配期に充実した花の確保が困難となり、収穫期・品質が不安定となっている。そこで、果実の成熟に必要な積算温度や結果枝の摘芯方法等を検討する。

ズッキーニは、半促成栽培で3～4月に雄花が不足するため、この期間の収量が不安定となっている。そこで、雄花着生条件の解明と着果安定技術の更なる検討を行う。

以上のことから、ウリ類の収量性を確保する栽培技術及び着果安定技術を確立し、更なる産地強化及び生産拡大を目指す。

加えて、クリの未利用資源（せん定枝チップ）活用による炭素貯留効果の検証と栽培の省力・軽労働化を可能にするスマート農機利用技術を開発する。

Ⅲ 試験研究課題一覧

【球磨農業研究所】

部門	大課題	中課題	予算		小課題	試験期間	
			金額	区分			
茶・果樹・野菜	1. くまもと農業の未来発展につながる新品種の開発・選定	(1) 球磨地域に適した茶・落葉果樹の優良品種選定	1,768	県単	① 球磨地域の機械化管理体系に対応した茶優良品種の選定 ② 球磨地域の施設栽培に適した早生モモ優良品種の選定 ③ クリの生育状況及び栽培特性調査	S53～継続 S58～継続 S58～継続	
		2. 生産性の向上を目指した革新的な生産技術の開発	(1) クリ（美玖里）の安定多収および水田転換クリ園での栽培技術開発	1,304	県単	① 「美玖里」の安定生産技術の確立 ② 水田転換栽植技術の確立	R6～R8 R6～R8
			(2) モモ「さくひめ」の高品質・高収益果実生産に向けた栽培管理技術の開発（再掲）	1,305	県単	① 施設栽培における栽培管理技術の開発 ② 台木の違いによるモモ若木の枯死症発生軽減技術の開発 「果樹研究所」、「球磨農業研究所」	R6～R8 R6～R8
	3. 環境にやさしい農業を推進する技術の開発	新規 (3) 球磨地域の気候に対応したウリ類安定生産技術の確立	2,250	県単	① 温暖化に対応した半促成メロンの栽培技術の確立 ② ズッキーニの雄花着生条件解明と着果安定技術の確立	R7～R9 R7～R9	
		新規 (4) クリ栽培の省力・軽労働化を可能にするスマート農機利用技術の開発（再掲）		農業技術課	令達	① クリの病害虫防除作業におけるドローンによる防除技術の確立 「アグリシステム総合研究所、果樹研究 ② ドローンによるクリの病害虫防除作業の省力効果の評価 「アグリシステム総合研究所、果樹研究	R7～R8 R7～R8
	3. 環境にやさしい農業を推進する技術の開発	延長 (1) 果樹における未利用資源活用による炭素貯留効果の検証（再掲）		農業技術課	令達	① せん定枝のチップ施用による土壌炭素貯留効果の検証 「果樹研究所、球磨農業研究所」 ② せん定枝のチップ施用が樹体等に及ぼす影響 「果樹研究所、球磨農業研究所」	R4～R8 R4～R8

注) **新規**：本年度から新たに取り組む課題

組替：課題設定時の内容を組み替えて設定する課題

延長：課題設定時の完了予定年度を延長して設定する課題

短縮：課題設定時の完了予定年度を短縮して設定する課題